

山岳科学総合研究所 友の会会報

2014年11月 第15号



もくじ

第16回現地研修会 報告 梶澤 義継	2
鈴木 智也	3
第17回現地研修会 報告 熊谷 久	5
第4回徳本峠フォーラム 報告 小林久雄	7
あきらめていません「友の会」の歌作り 小林久雄	7
編集後記	8

第 16 回現地研修会 報告

「磐梯山と会津を巡る旅」に参加して

今年 4 月から山岳友の会に入会させていただき、蝶ヶ岳に続き 2 回目の現地研修会に参加してもらいました。

初日は、松本からバスで裏磐梯松原湖の宿へ移動と勉強会でした。

私は、途中の小布施 P A で乗車となり皆さんと合流しました。そこで松本勤務時代にお世話にな



った銀ちゃんに 20 年振りにお会いすることができ、懐かしくまた感激しました。

宿の湯乃宿湯流里に到着して、福島大学堤教授から「裏磐梯の自然と人間～福島大学裏磐梯朝日遷移プロジェクトが目指すもの～」と題して勉強会に入り、磐梯山の歴史、自然、裏磐梯地域が抱える問題や毘沙門沼の水の色、裏磐梯の生物相、猪苗代湖の湖底ボーリングで得られた知見などをお聞き、明日の磐梯山登山と五色沼の知識をみっちり覚えました？

2 日目は、磐梯山登山と五色沼散策です。朝方まで降っていた雨も止み、登山者の 8 割が利用する八方台登山口から山頂を目指しました。

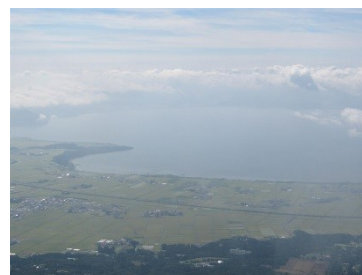


山頂に着いても霧がかかり見晴らしはききませんでしたので、各自看板の前で写真を撮りながら後続者を待っていました。そこに登山者とは様子が違う楽天のジャンパーを着た男性が、缶ビールを飲みながらふらふらしていましたが、聞いてみると岡部小屋の

店番をしているとこでした。(店番は少なくともカンビール 2 本は空けていた。)

そこでひとつ話題となったのが、カップめん 1 個 300 円(お湯、箸、七味あり)が安いとのことでしたが、ポッカで荷揚げしているからその値段でも採算がとれることに落ち着きましたが、その後、小生が北アルプスの山小屋の一部を調査したところ、カップめん 1 個 400 円(お湯あり)が相場のようなのです。

そうこうしているうちに、霧が晴れて猪苗代湖や田園風景が直下に一望でき、北アルプスなど山頂から眺める風景とは違った味わいがありました。





下山途中、岩に住んでいるイシノミ（石蚤）の生態を教えてくださいました。原始的な昆虫の仲間、石の上において藻類などを食べるようです。肉眼ではよく解りませんでした、写真で拡大するといい面構えです。

最終日は、野口英世記念館、鶴ヶ城見学したのち無事帰路となりました。

3日間を通じて、車中、宿、山、昼食、何時でもアルコールを摂取しながらの現地研修でありましたが、特に、最終日は日本酒の差し入れを沢山いただき、お蔭様で翌日も余韻を味わいました。

参加者の皆さん、現地研修を企画運営して頂いた幹事さん、お疲れ様でした。



相澤 義継

磐梯山と会津を巡る旅ー自然と人間の共生ー

磐梯山での東北復興支援登山で初めて友の会の泊りがけ研修に参加させていただきましたが、みなさんのパワフルさにたいへん驚かされる旅となりました。

1日目は松本からバスで福島へ向かいましたが、バスに乗った途端に宴会がスタート（朝8時台でした！）。1日目は宿泊先で東城先生の大学時代の先輩である福島大学の塘忠顕先生が講義をしてくださる予定でしたので、バスの中ではそこまで呑まないかな…とっていたのですがとんでもない。大量に買ってあった酒類は湯水のようになくなりました。でもさすがに酔っぱらったまま塘先生の講義を受けるわけにもいきませんから、昼過ぎには宴会はちょっと休憩。



宿泊先の民宿に着いてまず塘先生の講義を受けました。磐梯山やその周辺地域の自然の成り立ち、どのように遷移が進行しているのか、観光地としての景観を大切にするべきなのか、それとも遷移が進行して環境が変化していく自然の流れを大切にすべきなのか…塘先生が代表をされているプロジェクトの内容についてお話を聞かせていただきました。その後はお待ちかねの夕食（宴会の続き）です。

女将さんのご厚意（？）で呑み放題に時間制限がなくなったのか…ただ時間制限を超えて飲み続けてしまったただけなのか…しかしたいへん楽しい夜でした。

2日目はこの研修のメインイベントである磐梯山登山です。「日本せっかち協会」のみなさんはとにかく朝が早い！朝 5 時から朝食でしたが、そんな朝早くにも拘らず朝ごはんとお弁当を用意してくださった民宿の女将さんに感謝です。磐梯山の登山口までバスで移動して、駐車場ではみんなで準備体操をしました。準備体操もしっかりしないと、せっかくの山行で怪

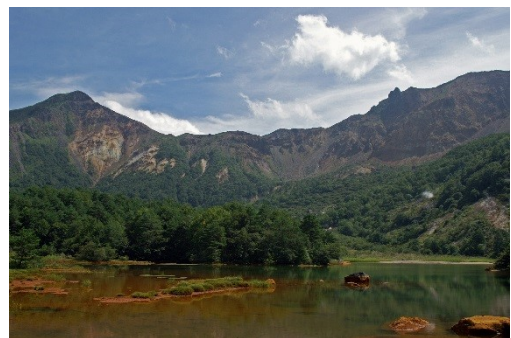


我をしてはいけませんからね。最初は久雄さん中心に体操をしていたのですが、途中で「じゃあ後は各自で適当にやってください！」と。そんな笑いも交えながら、みなさんで和気藹々としながら準備体操を終えて、いざ頂上へ！しかしこの日の磐梯山は雨こそ降らなかったものの雲が掛かっており、上へ行けば行くほどガスの中という状況でした。晴れ間の



見えぬまま弘法清水まで辿り着いたのですが、なんと弘法清水で立ち寄った売店の店員さんの息子さんは信州大学出身という偶然もありました。山頂に到着すると「はい、お疲れ様！」とビールを頂き、ゆっくり登って来ている方たちを待っていました。しかしなかなか晴れず、良い景色も見られないまま下山かな…と思っていたのですが、全員が山頂に揃うと雲が切れ

て磐梯山の麓の水田や猪苗代湖をしっかりと拝むことができました。これもみなさんの日頃の行いの良さですかね。そして山頂で記念撮影。しかしみなさん、目の前に広がる素晴らしい景色に夢中で集合写真なのにほとんどカメラを見ていません！



下山中は天気も良く、景色を楽しみながら歩くことができました。花の時期は終わっていましたが、お花畑で山口会長の格好いい写真を撮らせて頂きました。流石、山が似合います。途中、銅沼でお弁当を食べてバスまで辿り着くと「はい、お疲れ様！」とまたしてもビール！みなさん本当によく吞まれる。磐梯山から下山した後は五色沼へ。前日の塘先生の講義を聞いた翌日でしたので、ただの観光ではなく、これから遷移が進行していくとこの美しい景観がなくなってしまうことや、そこに人の手を入れることが良いことなのかどうかなど、様々なことを感じながら歩きました。



そして 2 日目の晩はバスの運転手さんも交えて宴会を行いました。運転手さんも「私もこの業界で長いですが、宴会に入れてもらうのは初めてです」と言っていましたね。この日も呑み放題は何時から何時までだったのか…。

3 日目は民宿の前の道で自転車レースが行われる関係で、予定より早く朝食を済ませて野口英世記念館へ。この日は朝食からジョッキに生ビールを注いでいる方々もいて驚きました。しかしもっと驚いたのは朝 5 時過ぎに目覚めて布団の中でそろそろ起きなければ…と書いていたら隣で「プシュッ！」と缶ビールを開ける音を聞いた時でした。本当にみなさん朝から元気です！しかし早く起きすぎてしまったので野口英世記念館には開館前に到着してしまいました。最初は周りを歩いたりして待っていたのですが、そこは「日本せっかち協会」、職員さんに掛け合って開館時間を早めてもらってしまいました。野口英世記念館の後には鶴ヶ城に立ち寄り、お土産屋さんでそれぞれ土産物を購入してしっかり復興支援をしてきました。



今回、初めて友の会の現地研修会に参加させて頂きましたが、たいへん楽しく、そしてよく呑んだ旅になりました。ありがとうございました。

鈴木 智也

第 17 回友の会現地研修会 オプショナルツアー報告

晩秋の奥又白池を尋ねて

去る 10 月 18 日(土)、19 日(日)に開催されました「第 17 回友の会現地研修会」について報告させていただきます。友の会事務局からいただいた日程表によりますと、2 日目は上高地ステーションから岳沢小屋へお昼を食べに行く計画でしたが、困炉裏を囲んで飲んだ勢いからでしょうか、私は、奥又白池を目指す組に手を上げてしまいました。7 月の蝶ヶ岳登山でも、下山計画が直前に大滝山経由で徳本峠から上高地に下る行程になりまして、予定が直前どころどころ変わるのは友の会らしいと思うのですが・・・。

19 日の早朝は-0.1℃と冷え込みましたが、奥又白池組の 9 名と岳沢小屋組の 5 名は、予定通り 7 時にステーションを出発しまして、それぞれの目的地を目指しました。私たち奥又白池組の 9 名は、梓川の霧氷に感激しながらも、前夜に美味しいお酒で過剰に摂取したカロリーを消費しよう(?)と、少しペースを上げましたので新村橋を 7:50 に通過することができました。奥又白谷(沢)に入ってから紅葉と穂高連峰の絶景を堪能しながら歩きまして、中畠新道とパノラマコースの分岐には 8:40 に到着しました。

昭文社の「山と高原地図」では、明神から中畠新道分岐までの所要時間は 2:40 となっていて、いくらアルコールを抜くためとはいえ 1 時間も短縮するとは・・・！！。皆

さん、健脚揃いですね。しかし、この分岐で3名の方が安全優先の自己責任で下山を選ばれました。

この中畠新道分岐からは、いきなり急登が待ち構えていまして、私は登山道の岩や木に掴まりながら、恐る恐る足を進めました。皆さんに遅れないように息を切らせながら40分程登ったところで、奥又白谷の雪渓が眼下に見られる平場に到着しまして、しばし休憩。振り返れば7月に歩いた蝶ヶ岳と大滝



前穂高岳と奥又白池と筆者(撮影 小林久雄氏)

山が正面に見え、蝶ヶ岳ヒュッテも臨むことができました。行く手には前穂高岳の3峰から6峰の東壁が雲一つない青空に聳えていまして、私たちが歓迎しているかのように思えました。

ここからは、先導する小林さんと梶澤さんの後を遅れないように付いていくことで精一杯。この登山コースは、地図の凡例に「難路」とされている点線で描かれており、地図上にも「熟達者向」と書かれ、登山歴4年の私には厳しいものでして、しかも標高が上がるにつれ登山道にも積雪が見られるようになり、いつ引き返そうかとそればかり考えていましたが、10:30に目的の奥又白池に到着することができました。

この奥又白池からの展望はすばらしいものでして、常念岳から大天井岳に続く稜線、蝶ヶ岳、大滝山、遠くに八ヶ岳や南アルプスまで臨むことができました。また、眼前の前穂高岳連峰の圧倒されるような絶景には「感動」の一言。また神秘的な奥又白池も八方池や白馬大池に負けない美しさでした。

奥又白池の畔で小林さん、梶澤さんとビールで乾杯！！。竹原、細萱両シェフに早朝から心を込めて作っていただいたお弁当をご馳走になり大満足。良き仲間巡りに出会ったことを幸せに思います。45分程の休憩の間に思う存分写真撮影を楽しみ、晩秋の北アルプスの絶景を私の目にも焼き付けました。

11:15に下山を始めましたが、登るときにはあまり気にならなかった1cm程の積雪が、下るときは結構気になるもので、滑らないようにゆっくりゆっくり、一步一步、足を進めていきました。舞い降りるように下る小林さん、梶澤さんのザックが見えなくなり少し心細い思いをしましたが、危険なところではお二人とも待っていてくださり、アドバイスをいただきながら「熟達者向」の登山道を無事下ることができ、ステーションには、13:40に到着しました。

最後に、今回の現地研修会に参加された13名の皆様と、きめ細やかな準備をしていただいた奥原仁作さんを始めとした事務局の皆様にお礼を申し上げて、現地研修会の報告をまとめさせていただきます。

熊谷 久

第4回徳本峠フォーラムに参加しました

11月1、2日の第4回徳本峠フォーラムに参加しました。雨の島々谷を登り詰めて参加しました。徳本峠小屋には、30名ほどが集いました。『古道徳本峠道を守る人々』の主催で山岳友の会が協賛です。講演は「私はこんな雪山を登ってきた」と酒井国光さんのお話で、「心酔の会」で楽しみました。

翌朝は雨もあがって絶好の道普請日和、途中の橋の架け替えに汗をながしました。蛇籠を三つ解体し(解き石を出す)移動、橋の兩岸を整理して再構築して橋を架け替えました。奇跡的な晴れのおかげで、昼までに橋は完成しました。



なお、松本市山岳観光課の計らいで、「日本山岳遺産」に登録して活動のための予算化実現の方向性が報告され、来年以降に明るい話もありました。

橋の架け替えは重労働でしたが、23名の参加で半日の晴れ間で実現できました。

今後の発展に期待しつつ島々谷に無事下ることが出来ました。

小林 久雄

♪ あきらめていません 「友の会」の歌作り ♪

いつも楽しく「現地研修会」などで会員の交流を実施していますが、みんなで楽しめる歌もあっていいのでは……と常々思っています。

『どんぐり コロコロ』の替え歌など先日10月18、19日の上高地ステーション囲炉裏部屋で歌ってみました。それなりに楽しくは出来ましたが……テンポがもっとあってみんなで楽しめたらとさらにもう一曲懐かしい歌に挑戦してみました。昭和36年頃の守屋浩さんの明るい歌「有難や節」です。

お酒好きの友の会らしく、3番に少し反省を込めて作ってみました。是非、ご笑歌ください。



第5回湖沢談話会での記念撮影(撮影 島村芳太郎氏)

小林 久雄

有難や節

浜口庫之助 作詞
森 一也 作曲 守屋 浩 歌

有難や有難や 有難や有難や
金がなければ くよくよします
女に振られりゃ 泣きまする
腹がへったら おまんまたべて
寿命尽きれば あの世行き
有難や有難や 有難や有難や
恋というから 行きたくなって
愛というから 会いたがる
こんな道理は 誰でもわかる
それを止めたきゃ 字を変えろ
有難や有難や 有難や有難や

有難や有難や 有難や有難や
デモはデモでも あの娘のデモは
いつもはがいい じれったい
早く一緒に ならうと言え
デモデモデモと 言うばかり
有難や有難や 有難や有難や
近頃地球も 人数がふえて
右も左も 満員だ
だけど行くところ 沢山ござる
空にや天国 地にや地獄
有難や有難や 有難や有難や

有難や有難や 有難や有難や
酒を呑んだら 極楽行きと
思うつもりで 地獄行き
どこでどうやら 道まちがえて
どなる女房の 閻魔顔
有難や有難や 有難や有難や
親の教えは 尊いものよ
俺もそろそろ みならおか
おやじゃええとこで 酒呑んでござる
勉強ばかりじゃ 親不孝
有難や有難や 有難や有難や

編集後記

14号に続き15号を発行します。少し近い感もありますが、一大イベントだった磐梯山行の報告もありましたし、12月の講演会のお知らせもあっての発行です。ご了承ください。季節の移ろいの早いこと。黄葉に輝いた上高地も、いまはモノトーンの世界に。木々はひっそりと身を固くして雪を待っているようです。来年度事業に向け、会員の皆様からご意見や要望を出していただきたいと思っております。やってほしいこと、行きたい場所などお寄せ下さい。

友の会編 有難や節

こばQ 作詞
森 一也 作曲 ♪友の会合唱団♪ 歌

有難や有難や 有難や有難や
酒がなければ がっかりします
雨にふられりゃ 濡れまする
山に登れば ビールを飲んで
下りてつまづきゃ あの世行き
有難や有難や 有難や有難や
酒と言うから 避けられなくて
呑めと言われりゃ ハイと呑む
そんな事なら 誰でもわかる
それで悪けりゃ 山行くな
有難や有難や 有難や有難や

有難や有難や 有難や有難や
天气が悪いと 酒盛り騒ぎ
晴れた晴れたと ビール呑む
山で呑まなきゃ 里で飲み
酔って騒いで 「友の会」
有難や有難や 有難や有難や
近頃地球じゃ いさかい続き
気分晴れずに 酒を呑む
ためいきばかりで ころもすさみ
皆で騒いで 「友の会」
有難や有難や 有難や有難や

有難や有難や 有難や有難や
教授の教えは 尊いものと
悪い仕業の 原子力
それでも無理やり 道間違えて
進める政府に 飽き飽きさ
有難や有難や 有難や有難や
勉強するほど 理屈もわかり
皆でそろそろ 見直そう
酒盛りばかりの 仲良し仲間
「友の会」だよ 「友の会」
有難や有難や 有難や有難や

山岳科学総合研究所友の会会報 第15号

発行日：2014年11月20日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

山岳科学総合研究友の会事務局

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp